

## AIと心くAIと人間の共存についてく

白田中学校 三年 川村 千佳

私はある日、調べ物をしている時にAIチャット機能を見つけたので、気まぐれに

「AIに心はありますか。」

と質問してみました。すると

「AIに心があるかどうかは人によって意見が分かれると思います。」との回答で、私にとってはかなり驚きでした。AIに心があると私はどうしても思えないのですが、ふと思ったのです。AIの回答通りに捉えると「人によって意見が分かれる」とはどういうことなのでしょう。「AI」は人間に創られたものはずなのに、本当に心はあるといえるのでしょうか。この疑問から、私は「人間とAIは共存できるのか」について考えてみようと思いました。

しかし、最初に述べてしまうとAIには心はないといえます。人間の作ったプログラム通りに動いているためです。でも、心がないからこそ社会では扱いやすく、様々なことに活躍しています。

まずAIが身近に利用されるメリットとして、一つ目は「医療の現場」です。この現場では特に、病気の早期発見をするために患者さんのX線画像やCT画像から、病気の可能性のある場所を検出するなど、のことに活用されています。

二つ目は、「教育の現場」です。最近導入された一人一台の教育用タブレットで、テスト結果を解析し、それぞれの生徒の授業の理解度を測定することで、今後の授業内容に活かすことに利用されています。

三つ目は、「商業施設での販売や案内の現場」です。例えばあるお店の案内AIロボットは、店内の食事の配膳やメニューの値段をお客さんに伝えること、外国人の方を様々な言語で案内することを行っています。これらの現場ではどれも「人手不足を解消することや」人には難しい技術のを行う」ことにAIが利用されているようです。しかし、もちろんAIにはメリットだけではなくデメリットもあります。一つ目に「コミュニケーション力の低下」です。会話や話し合いの機会がAIの機能に補填されてなくなってしまふことにより、うまく話せなくなって人間関係が悪化します。医療では問診なのにパソコンと向き合っているだけで患者さんと面と向かって話せず、診療が終わってしまう、育児では泣かないようにするため赤ちゃんにスマホの動画を見せて子守りしてしまい、その赤ちゃんが親と話せなくなるなど、本来人間ができるはずの能力を奪ってしまいます。他にも、スマホAIとだけ話していて、話し相手がいなくなることで周囲から孤立してしまふこともあり得ます。

二つ目に「機能の悪用」です。身近に言えば、「詐欺」や「インターネットウィルス」がより細かく気付かれにくいものになってしまふなど、せつかく進化した機能も悪い方向へ使われてしまふかもしれせん。

三つ目に「考える力の低下」があります。これは私自身も体験していて、タブレットやスマホなどを長時間利用してしまふて脳に悪影響が及び、文章を書くときに漢字が思い出せない、集中できないなどの支障が表れてくるのです。

これらのデメリットが重なり、人間の立場がAIよりも低くなってしまふたとき、人間はAIに徐々に支配されていってしまふかもしれ

ません。もしAIに心があると、人間より全体的に優れている分、暴走して人間などに危害を与える危険性があるため、どんな理由があろうと、あくまで人間がAIを操作することが重要なのです。なので、将来的にもAIには心は無いほうがいいのかもしれない。

これらを考えてみて、AIと人間が共存するために私は、AIに人間のできることで任せすぎないこと、「自分で考える」を大切にすること、疑問はすぐにAIで「調べて解決」するのではなくて仲間と話し合ってみることが大切と気付きました。私たちはAIを間違った方向に使わない「善悪を判断する力」が必要です。AIは物事を決めるものではなく、決める手段を与えるものなのです。なので、AIを使う時は適材適所で使うべきところを人間が判断し、使っていくことが大事なのです。

以上のことが、AIと人間が共存するために大切なことだと私は思います。